

こしえるびと

つむぐストーリー vol.110

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の
メッセージをシリーズで紹介していく。

花き栽培の魅力を伝えたい

大東町曾慶

佐藤賢一さん

家業の花き栽培を残したい

冬晴れの太陽の光が差し込むハウ
ス。佐藤賢一さんはストックの花
を丁寧に収穫していく。賢一さん
の家は花きを栽培する農家。リン
ドウをメインに、スターチスやスト
ックなどを栽培してきたが、父の芳清
さんのけがや母のみえさんの病気
と、予期せぬことが相次いだ上に、
2020年12月の災害級の大雪でパ
イプハウス5棟のうち1棟が倒壊し
てしまう。「もう終わりにしようか」
と肩を落とした芳清さんの姿を見た
賢一さんは「これまで築き上げてき
た花き栽培を終わらせるのはもった
いない」と就農を決意。仕事をやめ
農業に専念することにした。

J A園芸課の花き担当職員のア
ドバイスに従い、21年度に一関地方新
規就農トータルサポートシステムを

利用。1年間、J A園芸課の研修生
として栽培と経営のノウハウを学ん
だ。

先輩たちのアドバイスを糧に

研修先の先輩たちからたくさん
事を教えてもらったおかげで、翌年
からスムーズに就農できた。就農と
同時に取り入れた小菊は初めてで不
安が多いが、先輩たちのアドバイス
を糧に栽培を進めている。昨年の小
菊はうまくいくと予想していたもの
の、猛暑による高温の影響か、開花
時期が遅れてしまった。「今年は定
植作業も畑の切り替えもうまくでき
るようにしたい」。反省を踏まえて
計画を見直し、新たな目標を見つけ
る。ストックからスターチスへの切
り替えの時期を迎えた今、「畑づく
りはスタート地点」と力を込める賢

一さん。ハウスによる土壌の違いを
感じ、土作りの改善を急いでいる。
ハウスを再建し面積拡大へ

研修生の同期は良きライバルであ
り、助け合う仲間。品目は違っても
情報交換をすればモチベーションが
上がり、栽培の工夫がひらめく。繁
忙期には地域の人たちの手助けがあ
り、頼りになる助言や作業に手を差
し伸べてくれることに感謝の心を募
らせる。

賢一さんは1日でも早くハウスを
再建して面積を戻し、さらに拡大を
図りたいと考えている。「スターチ
ス、小菊、ストックの花でしっか
りと生計を立てられるようにしたい。
そして花き栽培の魅力を伝えていき
たい」。夢の実現に向け、賢一さんは
挑戦を続ける。



PROFILE

佐藤 賢一さん (50)

Kenichi Sato

大東町曾慶

1973年大東町曾慶生まれ。地元の高校を卒業後、山形県の大学に進学。山形県内で約10年間働き2006年帰郷。地元企業に勤務してさまざまな経験を積み、22年就農。スターチス7%、ストック6%、小菊5%、水稻40%。父と2人暮らし。

